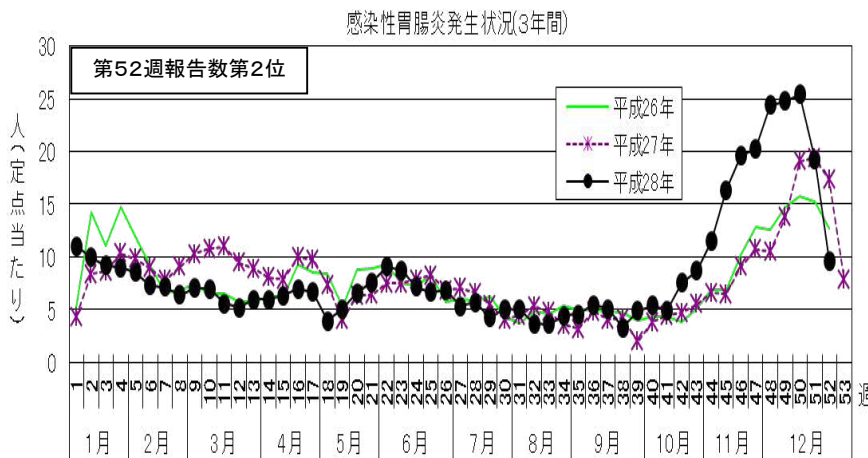
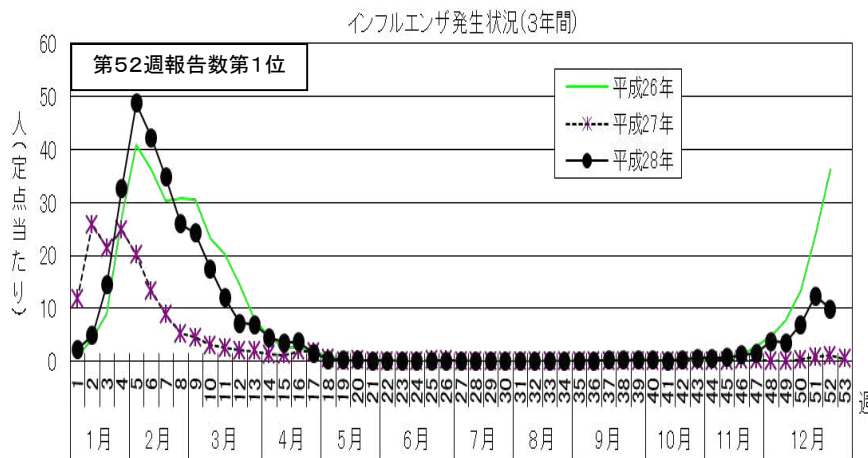


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年12月26日（月）～平成29年1月1日（日）〔平成28年第52週〕の感染症発生状況

第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は9.95人と前週（12.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.61人と前週（19.28人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.75人と前週（2.78人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



今こんな病気が流行しています！！

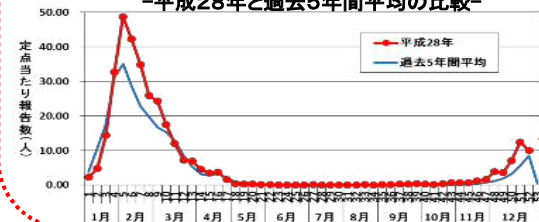
年末年始は多くの医療機関が休診であったことから、各疾患の患者報告数が減少しましたが、咽頭結膜熱と流行性耳下腺炎の患者数は増加がみられています。

また、インフルエンザは定点当たり患者報告数が9.95人と流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を下回りましたが、入院サーベイランスは定点当たり患者報告数が4.00人で重症の患者が増加しています。

インフルエンザ

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れ、風邪と同様に、のどの痛み、鼻汁、咳等がみられます。

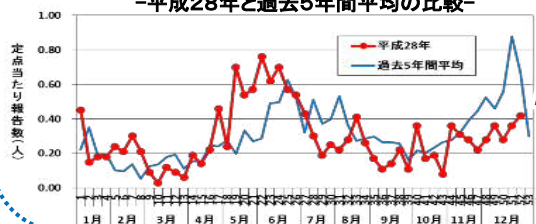
川崎市におけるインフルエンザ発生状況
-平成28年と過去5年間平均の比較-



咽頭結膜熱

発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭炎、結膜炎等がみられます。また、高熱が比較的長く（5日前後）続くこともあります。

川崎市における咽頭結膜熱発生状況
-平成28年と過去5年間平均の比較-



流行性耳下腺炎

両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱等がみられます。また、3割程度は感染しても症状が出ない（不顕性感染）と言われています。

川崎市における流行性耳下腺炎発生状況
-平成28年と過去5年間平均の比較-

